

次世代のジュニア育成のために。

フリースタイルスキージュニアキャンプをサンクゼールが応援しました。

「久世福商店」、「St. Cousair（サンクゼール）」などの専門店を全国展開する、製造小売企業（SPA）の株式会社サンクゼール（本社・長野県飯綱町/代表取締役社長：久世良三）は、2017年3月27日（火）長野県野沢温泉スキー場で開催された、「ジュニアフリースキーキャンプ」に協力、支援させていただきました。



サンクゼールとスキー

株式会社サンクゼール代表取締役久世良三は、東京で生まれ育ちましたが、幼い頃から長野県でスキーをする機会に恵まれ、大学時代は競技スキーのキャプテンを務める程でした。大学卒業後は、大手スーパーや父親の経営する商社で経験を積み、1975年新潟県斑尾高原スキー場にペンションを開業。お客様にスキーのコーチをするなど、家族の時間を軽視してしまったことで離婚の危機が訪れ、開業から6年後、やむなくペンションをたたみました。その後、妻まゆみの手作りジャムからサンクゼールがスタートしていきますが、久世の人生に大きな影響をもたらしたスキー。特に長野県への想いは強く、今年は特にスキーの国体が10年ぶりに長野県で開催されるため、サンクゼールは、長野県スキー連盟にわずかではありますが、お手伝いさせていただきます。

フリースタイルスキージュニアキャンプ

フリースタイルスキージュニアキャンプは、長野県スキー連盟主催で2010年から開催され、当初はモーグル選手の上村愛子氏とモーグルを体験するという趣旨でスタート。今年で開催7回目を迎え、長野県内外6歳から13歳まで19名の参加者は、フリースタイルスキー4種目（ハーフパイプ、スロープスタイル、スキークロス、モーグル）を体験しました。参加者のほとんどが、普段からフリースタイルスキーやアルペン等のスキー経験者で、中には大会に出場、入賞しているようなジュニアもちらほら。ソチオリンピックに出場したスキーハーフパイプ選手の上野まなみ氏他、ワールドカップ出場者等、日本を代表するトップクラスのコーチ陣と一緒に滑るだけでなく、参加者同士がお互いの技を披露しあい、声を掛け合い、これからのフリースタイルスキーを牽引していくであろう、ジュニア同志が絆を深めていました。「ハーフパイプは初めて！」と言いながら、大きなジャンプを見せてくれたり、「モーグルは初めてだったけれども、コブコブが楽しい！」と、キャンプ終了後も楽しんでいたり。お土産にサンクゼールの自社製造商品をプレゼントさせていただきましたが、大事に嬉しそうに持ち帰る様子にとっても心が温まりました。サンクゼールはこれからも次世代を担うジュニアを応援します。

2017.3.29

